

2006年 6月5日(月) — 第1回 —

JAみやぎ仙南 田んぼの生きもの調査

夕日に映える丸森町の田んぼ



調査日時：6月5日

参加人数：8名

参加団体：JA職員4名、生産者4名

調査地点：無農薬無化学肥料・乾田(小野良則さん)、減農薬田(菊池良平さん)

調査項目：基礎調査、棲息環境調査、イトミミズ・ユスリカ調査、コドラート調査

「アイガモ農法」「紙マルチ」試行錯誤の連続

JAみやぎ仙南で、初の調査が行なわれました。「消費者に、日本の文化・伝統・自然を支えてきた田んぼの大切さを、生きものを通して伝えたい」と、調査を始めたきっかけをJAみやぎ仙南大槻栄俊さんは話します。

JAの無農薬生産部会には127名と、多数の生産者が所属します。調査ほ場の1カ所を提供した菊池良平さんは、そのなかでも草分けの一人。山間の天水に恵まれた田んぼで、できるだけ農薬を使わず、栽培を続けてきました。

菊池さんに続いて10数年、無農薬無化学肥料栽培に取り組んできた小野良則さんは、アイガモ農法の後に草よけの紙マルチを敷くなど、独自の応用を効かせます。土や気候に合うものをなんでも取り入れるチャレンジ精神に満ちていて、今年は青森県等で視察した「ふたやま耕起」という農法に挑戦しています。今後は、水が抜けにくい水口側の田んぼで「ふゆみず田んぼ」の農法を取り入れることも検討しています。

JAみやぎ仙南

産地紹介：1981年にみやぎ生協と交流を始めたJAみやぎ仙南は、今回の調査でも目的の第1に消費者交流を挙げる。調査地の丸森町は棚田百選にも選ばれた美しい中山間地で、南北の生き物が並存する生態系の豊かな地域。

主な出荷銘柄：ヒトメボレ、コシヒカリ(みやぎ生協...ササニシキ、マナムスメ)
組合員数：JAみやぎ仙南2万3,000名(うち丸森町3,000名)

(地図)

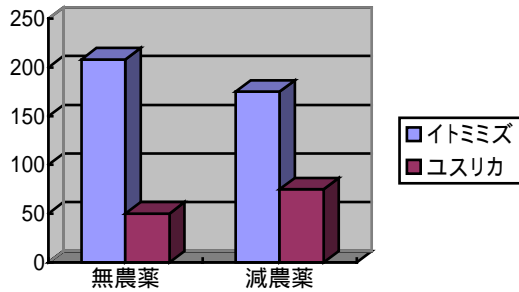
結果発表！

土のなかの生きもの調査 (10aあたり匹)	イトミミズ	208.3万	175万
	ユスリカ(幼虫)	50万	75万
生息環境調査	調査時刻	14:00 ~ 14:15	11:30 ~ 12:10
	天気	晴れ	晴れ
	風	弱風	弱風
	気温()	26.5	25.2
	水温()	34.7	30.5
	水深(cm)	4.5	3.5
	pH(酸度)	8.77/8.50	8.07/7.47
	EC(電気伝導度、mS)	0.220	0.149
	DO(溶存酸素量、mV/l)	0.4	15.9
	ORP(酸化還元電位、mV)	-176	-108

この表の調査日は2006年6月5日



調査の様子



辺りは美しい森に囲まれている

見つかった生き物たち

無農薬・無化学肥料：ミジンコ 164 万、フカトンボヤゴ・オオタニシ・オタマジャクシ各 1 万
 減農薬：ミジンコ 984 万、ドブシジミ 16 万、オタマジャクシ 7 万、ミズダニ 2 万、ドジョウ・ハイイロゲンゴロウ各 1 万



山すそに田園風景が広がる

データを読む 岩淵成紀 先生

未提出